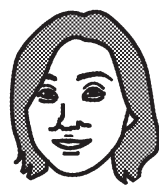




# 三原のQ 子宮頸がんワクチンの公費助成の実施を

女性の健康と命を守る、効果的な公費支出です

- 子宮頸がんは発症率が高く乳がんを抜いている。日本の女性で年間15000人以上が発症し、3500人が亡くなっていると推計されている。
- 特に、20歳代から30歳代に増えており、20歳代の女性では発症率が一番高いがんになっている。
- 子宮頸がんはがんの中でも唯一ワクチンで予防できるもので、世界百力国以上で承認され接種が行われている。うち約30カ国で公費助成がなされている。
- 日本では、2009年10月にワクチンの接種が承認され、接種が始まっているが、半年間に3回の接種が必要で、費用が4万円から5万円かかり、自費での接種が困難になっている。
- 伊勢市ではすでに中学生を対象公費助成が実施されている。(名古屋は10月から)大紀町、玉城町でも予算化された。国でも厚生労働省が、予算要求を出している。



国では、子宮頸がんを防ぐHPVワクチン、乳幼児の細菌性髄膜炎を予防する肺炎球菌とヒブワクチンの接種費用の公費助成が検討されています。この間、日本共産党元参議院議員小池晃議員は、子どもと女性の命を救えと定期接種化を求め続けてきました。1日も早い実現にむけて、国・県・市議団で連携をはかり、皆さんと力を合わせて、引き続きとりくみます。

日本での細菌性髄膜炎の患者は、毎年1000人以上。原因の6割強をヒブ、3割を肺炎球菌。患者の5%が死に至り、20%に重い後遺症が残ります。欧米では、すでに定期接種が実施されています。



国の動向を見て実施にむけて検討する

# 三原のQ 子どもの医療費無料化年齢拡大と窓口無料化を

全国では窓口無料化はあたりまえ



子ども医療費の無料化は、子ども手当が現物支給になったら優先して取り組む。



名張市は子どもの医療費無料化は、就学前までです。子どもが具合が悪くなったら早期に治療をすることで、重症化を防ぎ、救急医の負担を減らし、親も安心できます。

無料化をすると医療費が上がるという意見もありますが、それは、「お金がかかるので受診できなかった子どもがいた」という証明ではないでしょうか？具合が悪くもないのに、病院に行く子どもはいません。「早期発見」「早期治療」は、長期でみれば医療費の抑制にもつながります。

なにより、大事なのは子どもの健康と医療を守ることです。



## 35都道府県で窓口無料を実施

青森、秋田、山形、宮城、福島、茨城、群馬、栃木、東京、千葉、神奈川、山梨、静岡、愛知、岐阜、新潟、富山、滋賀、京都、大阪、兵庫、岡山、広島、山口、高知、徳島、香川、愛媛、島根、鳥取、大分、福岡、佐賀、宮崎、熊本 (市町村が実施)

窓口無料を実施していないのは  
東海4県で三重県だけ

## 三重県下、市町村ですすむ子どもの医療費無料の充実

中学校卒業まで入院無料	中学校卒業まで入院無料
亀山市	亀山市
鳥羽市	鳥羽市
東員町	東員町
大紀町	大紀町
木曾岬町	木曾岬町
明和町	明和町
大台町	大台町
津市	
川越町	

窓口無料化は、現在三重県で協議がすすんでいます。皆さんの声を大きくして、実現させましょう！！  
ただいま子どもの医療費無料化の拡充を求める  
請願署名を集めています。ご協力お願いいたします。

